



約1,000人が参加した市民大会

島民をはじめ青年・女性・経済団体の代表者が、戦後66年が経過してもいまだに解決しない領土問題に、政府の強力な外交交渉の要望と返還運動

根室市民の怒りと返還への想いを発信

北方領土返還要求根室市民大会 8/7

「返還運動の原点の地」である根室の市民が一堂に会して、北方領土返還要求運動を強力に推進する決意を表明し、全国にその声を発信する市民大会が、北方四島交流センター特設会場で開催され、約1,000人の市民が参加しました。大会長の長谷川市長は、「北方領土問題の一日も早い解決に向け、いかなる困難にも屈せず、返還運動にまい進する。」とあいさつした後、元



こぶしを突き上げ怒りを叫んだシュプレヒコール

に寄せる決意を力強く訴えました。大会の最後には、「根室市民は、返還運動原点の地の住民として、全国にこの痛みと怒りの声を発信し、国民世論を一層喚起するとともに、断固たる決意と熱意をもって、さらなる返還要求運動に尽くす」との大会決意案が、満場の拍手とともに採択され、参加者は、怒りと領土返還への想いが詰まったこぶしを突き上げ「北方領土を返せ！」のシュプレヒコールを繰り返して、領土問題早期解決を訴えました。

最高に熱い暑い3日間

金刀比羅神社例大祭
8月9～11日



中心街を練り歩くみこし巡幸

北海道三大祭りの一つに数えられる金刀比羅神社例大祭が今年も行われ、大きなきわいをみせました。

緑町のお旅所前で行われた四祭典区の山車の競演を皮切りに、翌日にはみこし巡幸が行われ、最高気温が30度を超えるの中、120人余りの担

ぎ手によって総重量1.5トンの金色のみこしが担がれ、「わっしょい！わっしょい！」という威勢のいいかけ声とともに金刀比羅神社からお旅所までの中心街約10kmを3時間

にわたって練り歩きました。みこしの後ろを色とりどりの華やかな浴衣やはらんでんを身にまとった祭典



区の間が続き、休憩時間には金棒や手古舞、獅子舞など、各祭典区の伝統の技を惜しみなく披露し、テンポよく打ち鳴らされる先太鼓やお囃子の音色に沿道に詰めかけた市民からは歓声と大きな拍手が送られていました。最終日には、金刀比羅神社にへかえるみこしが緑町に軒を連ねた220店の露店の中を練り歩き、間近に迫るみこしの迫力に観客は目が離せない様子でした。金刀比羅神社例大祭の終わりとともに根室は秋風が吹くと言われますが、市民や観光客は、根室の短い夏を存分に楽しみました。

ゴールを目指し力走

北方領土ノサップ岬マラソン大会 8/21

今年で30回の節目の開催となる北方領土ノサップ岬マラソン大会に597人が参加しました。

納沙布岬で開かれた開会式では、選手を代表して根室漁協職員広島孝史さんが「返還運動のように粘り強くゴールを目指します」と宣誓した後、参加者はハーフ、10km、3.7km、それぞれのスタート地点から10時50分に一斉にスタートしました。

天候にも恵まれ、参加者は涼風を受けながら、高低差のあるコースに挑戦し、ゴール地点の市役所前では、四島おにぎりとお餅が振る舞われ、参加者は完走した達成感をかみしめつつ、根室の味覚で疲れを癒していました。

